

明日に向かつて

ともに創る

62

大船渡市長 戸田公明

東日本大震災から7年目を迎えて

大震災から7年目に入り、この間、国内外の多くの皆さんから心温まる励ましと支援を受けつつ、市民との協働により復興計画は着実に進展してきました。

約260の復興事業のうち、現在7割強が完了または事業目的を達成し、残り3割弱に取り組んでいます。金額的には、平成29年3月末で約8割まで進んできているものと推測しています。

住宅再建については、災害公営住宅の建設が昨秋完了し、防災集団移転促進事業は今夏で完了予定です。また、自力再建についても

大きく進ちよくしました。

住宅再建に応じ、応急仮設住宅の縮小が進められ、6つの小中学校の校庭の応急仮設住宅撤去は昨年12月までに完了しました。残る2つの中学校は今夏には校庭が使えるようになります。応急仮設住宅の供与期間

の一律延長は平成30年3月末までとなり、同年4月からは特定延長制度へ移行する予定です。

被災した小中学校3校も完成しました。ほかの地域公民館整備、漁業集落のかさ上げ、漁港復旧、道路新設、消防屯所建設などの事業は、平成30年度でほぼ完了する見込みです。

ただし、例外が2つあります。それは大船渡駅周辺地区のまちづくりと、住宅建設を禁止・規制した大船渡駅周辺地区以外の被災地域（災害危険区域）の利活用です。

大船渡駅周辺地区では、特にJR大船渡線より海側で新たなまちづくりが進められており、5月の連休前には山側の仮設商店街が海側の新しい店舗に移転します。その後、仮設店舗を解体し、かさ上げ、道路・宅地整備を進めます。あと2

年くらいかかります。

大船渡駅周辺地区以外の被災地域では、高台移転で市が買い取った土地と民有地が混在しており、その利活用が今後の課題です。12地区のうち、10地区では利活用の方針が定まり動き出しています。あと2地区は住民や関係者の皆さんと協議を進めているところです。

復興も収束の時期を迎えつつある中、震災前よりも高いところに軟着陸させることが大変重要です。その意味は、次の3つです。

①震災前よりも経済が元気で市民所得も高いこと

②減少してきた子どもの出生数が今後は少なくとも減らない傾向であること

③今後数十年間深化する高齢化社会に適した助け合いのある地域づくり・まちづくりをすること（地域包括ケアと地域助け合いのまちづくり）

このように極めて重要な時期を迎えています。市民の皆さんとの協働を深め全身全霊をもって取り組んでまいりますので、震災復興と同様に今後もご理解とご協力をお願いします。

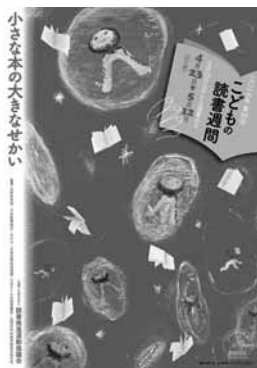
第59回「こどもの読書週間」

小さな本の大きなせかい

子どもたちにもっと本を、子どもたちにもっと本を読む場所を、との願いから「こどもの読書週間」は1959(昭和34)年に誕生しました。

2000(平成12)年から、期間が4月23日(世界本の日・子ども読書の日)から5月12日までとなり、毎年、各地で関連イベントが開かれています。

今年は、「小さな本の大きなせかい」の標語のもと、全国の図書館や書店



などで、子どもの読書を応援するさまざまな取り組みが行われます。

市立図書館では、期間中に、「読書ボランティアが選ぶ絵本・児童書展」を開催します。

子どもに読書を勧めるだけでなく、大人にとっても子どもの読書の大切さを考えるとき、それが「こどもの読書週間」です。この機会に、たくさんの本に触れ合ひましょう。図書館では、いろいろな本を用意し、来館をお待ちしています。

■読書ボランティアが選ぶ絵本・児童書展

▷期間＝4月29日(土・祝)～5月28日(日)

▷会場＝市立図書館展示スペース

▷内容＝読書ボランティアが薦める絵本・児童書の展示

▷問い合わせ先＝市立図書館(☎264478)